原っ子

学校だより №16（通算59号）
令和５年７月７日
小郡市立大原小学校
校長　山本貴澄　Tel 72-5500

今年度の重点目標「学び合い　助け合い　やり遂げる集団づくり」
合言葉「チャレンジ！　みんなでまなぶ　やりとげる」

５年生「大原小アグリカルチャー」で田植え体験！

筑紫平野にある小郡市は米作りがさかんな地域です。そんな地域のよさを生かし、５年生は総合的な学習「大原小アグルカルチャー」や社会科「米作りのさかんな地域」の学習を通して米作りについて学んでいます。大板井一区の区長さんをはじめ地域の方のご協力により、田んぼを借りて稲を育てていきます。５月２２日に苗箱に種をまき、約一ヶ月かけて苗を育てました。その苗を先月２６日に植えました。初めて田植えを経験する子も多く、最初は田んぼに入るのが不安そうでしたが、段々と泥の感触に慣れていきました。横一列に並ぶと、苗の塊から３～４本ずつちぎって、ひもにつけた目印に沿って２０センチ間隔で手植えしていきました。各学級５列ほどずつ植えたら、残りは田植機で使って植えていきました。１０アールの田んぼがあっという間に植え終わりました。

【種まき①】

【種まき②】

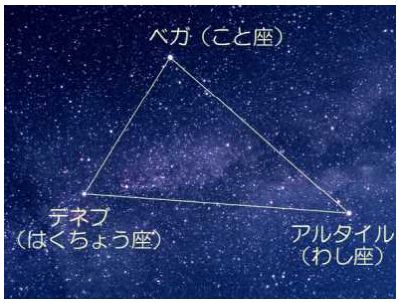
【田んぼまで苗運び】

【田植え】

米作りは、その漢字を分解して「八十八の手間」がかかると言われています。機械化が進み昔に比べるとかなり楽にはなりましたが、自然相手の仕事ですから天気や水の管理に気を遣ったり、害虫対策をしたりなど、稲が実って収穫できるまで気を抜けません。これから地域の方に田んぼのお世話をしていただきますが、米作りへの努力や大変さも知り、稲刈りの日を楽しみにしながらしっかり追究活動をしてほしいです。

４年生理科「星の明るさや色」の学習
～織姫星・彦星を見つけよう～

４年生は、もう少ししたら理科の学習で星について学習します。今日は七夕なので、その学習にも出てくる織姫星、彦星についてふれたいと思います。七夕伝説では年に一度、この織姫星（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）が天の川を渡って会うことのできる、特別な日とされています。（実際は光の速さで１５年もかかるほど離れています）。



【県立群馬天文台HPより】

この織姫星と彦星を探してみましょう。多分この星たちの観察が宿題でも出されると思います。今の時期の夜９時頃、東の空に明るい星が３つ見えます。一番高いところに輝いているのが織姫星です。その右斜め下に見えるのが彦星です。彦星から左の方には、はくちょう座のデネブがあります。これらの３つは、星の中でも特に明るい「１等星」で、３つを結んでできる大きな三角形が「夏の大三角」です。すぐに見つけることができると思います。天の川は、織姫星と彦星の間を流れていますが、小郡では空が明るいので見えません。南には、さそり座も見えています。理科の野口先生が授業で詳しく教えてくれますから楽しみにしていてください。

もう少し星情報です。今、西の空には日の入り後に金星が輝いています。今年の１月頃からずっと見頃でしたが、今日７月７日に金星が最大光度を迎え、一際明るく輝きます。この後８月中旬には見えなくなって、下旬頃に明け方の東の空に「明けの明星」として見えるようになります。７月１２日の明け方には、東の空でやや細い月と明るく輝く木星が大接近して見えますから、早起きの得意な人はぜひ観察してみてください。

今日は給食も七夕メニューでした。星のコロッケや七夕ゼリーをおいしくいただきまし

た。でも今夜は天気予報で雨マークが出ています。星の観察は難しいようです。残念。

６年生社会科 日本の歴史「国づくりへの歩み」
～小郡市埋蔵文化財調査センター訪問～

６年生は政治の学習を終え、６月から日本の歴史を学んでいます。先週の木曜日、小郡市の埋蔵文化財調査センター（以下「埋文」）を訪れました。小郡市は歴史豊かなまちとして全国でも有名です。その中でも注目されるのが、原始から古代にかけてです。旧石器時代の石器も発見されています。特に弥生から古墳時代には北部九州でも有数の発展を遂げた地域です。市内で４００基以上の古墳が見つかっていて、たくさんの宝器（青銅器）を持った王が存在したようです。埋文では、市内の遺跡から出土した考古資料をもとに、小郡市の歴史を紹介しています。

この埋文で６年生は、展示室と収蔵庫見学、勾玉つくり、火起こしの３つの活動を体験しました。展示室では、市内の遺跡から出土した考古資料をもとに、小郡市の歴史を紹介しています。「水とともに～小郡の水害とくらし～」という企画展も開催されていました。収蔵庫には、市内で発掘された埋蔵文化財が保管され、弥生時代の甕棺などの大型の資料が展示されています。子どもたちは係の人から説明を聞き、資料に直に手を触れて、遠い昔の歴史に思いを巡らせていました。古代の装飾品である勾玉づくりでは、滑石を根気よく削り、磨いてオリジナルの作品を仕上げました。火起こしでは、火起こし器を腕が痛くなるまで上下に動かすと黒い粉がヒキリ板のＶ字の溝にたまり、小さな火種ができます。その火種を麻ヒモの上にのせ、うちわで強く空気を送ると発火します。雨降りで湿気が多かったですが、何人かの子が火を起こすことができました。こんな大変な作業を昔の人は生きるために行っていたのです。あっという間に楽しい時間が過ぎていきました。

【収蔵庫にて】

【勾玉つくり】

【火起こし①】

【火起こし②】

５・６年生 子どもを守るアドバイザーによる授業

福岡県が実施しているアドバイザー派遣事業です。令和４年度から公立の全ての小学校（高学年）、中学校、高校に派遣され、今年度大原小学校での順番となりました。

【目的】自分も相手も大切にするコミュニケーション力を身につけ、社会の中で自他の安全を守って生活するための基本的なスキルを身につける。

【内容】「境界線」について・・・自分と相手との間には境界線があり、境界線の内側は自分だけのものであることを知る。

①体の境界線→誰とどれくらい距離をとるかは、自分が決められる。
②持ち物の境界線→持ち物やお金にも境界線がある。自分のもの、相手のもの。
③気持ちや考え方の境界線→自分と相手の気持ちや考え方には境界線がある。どんな気持ちももっていい。
④境界線がピンチのとき→「イヤ」だと相手に伝える。その場を離れる。味方になってくれる大人に話す。
⑤相手の境界線も大切→相手の境界線を超えていないか考えてみる。

【感想】

・境界線をやぶられたら、「イヤ」って言ったり、誰かに相談していいことがわかった。
・子どもも大人も大切なことだと思った。
・自分のものは自分のものと覚えておけば、これからは、これはいや、これはいいとかがはっきりとわかるようになるから大人になっても使う。
・相手のバリアも考えて生活したほうがいいなあと思いました。
・ぼくも境界線に入られたことがあって、まだその時は境界線を知らなかったから、何かいやな気持ちになっていたけど、これを勉強して、どうやったら対処できるか役に立つと思った。
・ぼくは、友達の境界線にすごく入っていたなと思い、これから気をつけようと思った。